

令和元年度

観光文化経済委員会

所管事項調査（管外視察）報告書

委員長 佐藤成子

- 日程 2019年8月6日（火）～8月8日（木）
- 視察・調査先 石川県 ・ 東京都
石川県金沢市「石川県立歴史博物館」「加賀本多博物館」
石川県庁
東京都石川県アンテナショップ「いしかわ百万石物語江戸本店」
- 調査項目 ◆ いしかわ赤レンガミュージアム 「石川県立歴史博物館」「加賀本多博物館」
施設見学：★歴史体験ひろば、交流体験館の利用状況・普及活動について・その歩みや展示内容について・石川れきはく活動ガイドについて
★加賀本多家の歴史・博物館の歩みについて
- ◆ 文化施設の整備と兼六園周辺エリアにおける魅力発信について
- ◆ 金沢港のクルーズ船誘致の取り組みとおもてなしについて
施設見学：
- ◆ 金沢市アンテナショップ（自由見学） <dining gallery 銀座の金沢>
- ◆ 石川県アンテナショップ「いしかわ百万石物語 江戸本店」
- 参加委員 佐藤成子委員長・宮城展代副委員長・伊東稔浩（車いす使用）
石上颯太郎・牧田博之・山本明彦・稲葉寛之
- 随員 望月千里・鈴木悠太・田中徳朗（車いす補助者）
- 視察先 浅野裕一（議会事務局次長）・山加奈子（議会事務局調査専員）
対応者 宮崎高裕（石川県県民スポーツ部文化振興課長）
久保光夫（石川県商工労働部港湾活用推進室次長）

8月6日（火）いしかわ赤レンガミュージアム「石川県立歴史博物館」

この赤れんがの建物はもともと、陸軍兵器庫。戦後、金沢美術工芸大学として使用されていた。何とも言えない周りの緑の芝生や木々にマッチする心落ち着くたたずまいだ。外観は、創建当時の姿を忠実に復元されていて、歴史的建物の保存と博物館としての再利用が評価されて平成2年、国の重要文化財に指定され、平成3年には、日本建築学会賞も受賞しているという。「歴史体験ひろば」「交流体験館」等、昭和の生活の再現や、身近な歴史の体験など、それぞれのコーナーが工夫されていた。外観（建物）の歴史の重さは、わが市では太刀打ちできないと思うが、この展示の仕方は、取り入れることができる、参考になるものであった。地下から繋がっている柱は、ガラス張りにして見える化がされていて成程と思うものであった。3棟なので、空間の使用にもゆとりがあり良かった。歴史の拠点施設の一つとして、県民市民の生涯学習の場として、活かされていた。高校生以下は入場料無料。教師向けに、「石川れきはく・活用ガイド～博物館を10倍楽しむために～」のパンフレットが作成されていて、より、小学生や中学生の来館に役立てられ、歴史博物館を充実させている。

加賀本多博物館

加賀百万石の加賀藩前田家に八家と呼ばれる大名クラスの重臣がいたが、その一人が、加賀本多家の初代、徳川家康の重臣、本多正信の二男本多政重。前田家の中でも格別の扱いを受けた。現在15代当主本多正光氏が館長を務めている。代々受け継がれている、甲冑・刀剣等2000点余りの収蔵品を100点余展示している。全国的にも、希少な武家博物館と言われている。この辺りが、「本多の森公園」と命名され兼六園周辺の文化ゾーンとして親しまれている。

8月7日（水）石川県庁於いて

《文化施設の整備と兼六園周辺エリアにおける魅力発信について》

◆兼六園周辺文化の森◆

兼六園を中心とする半径1kmのエリアを、このような名称のもと、賑わいと交流の拠点と位置づけ、文化施設と公園緑地の整備を進めている。金沢くらし博物館・県立伝統産業工芸館・県立能楽堂別館・県立能楽堂・県立歴史博物館・加賀本多博物館・県立美術館・鈴木大拙館・中村記念美術館・金沢能楽美術館・しいのき迎賓館・金沢21世紀美術館・石川近代文学館・金沢ふるさと偉人館・前田土佐守家資料館。この中に現在、国立工芸館の移転整備が進んで

いる。「文化施設マップ」にすべてが、コンパクトにまとめられて、わかりやすい、廻ってみようかな～と思わせてくれるチラシになっている。駿府城公園の開発整備の仕方に参考になる、この動線の導き方、歩いて、に加えて、バス（10分程）で回れる文化の集積には、「素晴らしい」の一言だ。徳川家の関連市？としては、静岡市も、伝統工芸文化は同じく盛んであったと認識しているところだが、工芸王国金沢を自負するだけに、継承と保存は全国1位と伺う。さらに、「国立工芸館・東京国立近代美術館工芸館」の2020年夏までに、このエリアに移築完成すると、このエリアを更に、賑やかにしていくと思う。国、県、市の連携の成果が見える。この文化の森は、より質の高い、とても良いスパイラルを産んでいると感じた。市全体を、コンパクトシティーを目指す静岡市。様々なものを集約し、エリア、ゾーン化がはっきり見える取り組みが必要なのではないか。その際、専門家の助言や、インバウンドの対応、子どもたちの巻き込み等も加味し進めてみてはどうかと提案したい。

《金沢港のクルーズ船誘致の取り組みとおもてなし》

年々、金沢港へ寄港するクルーズ船が増加している。寄港船は年間国内外50船を超えている。受け入れには、ボランティアによる「金沢港クルーズ・ウエルカム・クラブ」が活躍している。静岡市の清水港より組織として対応がしっかりしているように感じる。おもてなしの歓迎行事などの様子（写真）での、加賀友禅を身に着けた女性達の笑顔が印象的だ。会員は6800人ほどいると伺った。何とんでも北陸新幹線が開通するという3年前からの岸壁整備など進め、思いもよらずの来客数で、レール&クルーズの効果と嬉しい悲鳴との事だ。金沢港からのオプションツアー（岐阜・富山・白川郷などへ）を計画又、日本海周遊ルートと連携し、日本初の、どこからでも乗、下船できるなどの企画に参加したり、県や地元の方々に後押し頂き、金沢の魅力を最大限、情報発信している。周遊ルート・観光ルートの開発などまだまだ静岡市の出来る事があると感じる。どんどん豪華客船が来港する清水港。攻めの観光PR姿勢で、清水からの動線誘導が必要と感じる。整ってきているとは思いますが、まだできると思う。

金沢市アンテナショップ「dining gallery 銀座金沢」

伝統工芸品の代表的なものを販売している。その奥に、石川県産の食材を使ったレストランがある。ビルの4階なので、知る人ぞ知るの場所になっていて、レストランが主なのかと思う。ただ、このこ洒落た雰囲気、この伝統工芸品がマッチしていて、憎い演出感がある。アンテナショップと言うと、市を代表

する物が、所狭しと並んでいるようなイメージだが、ここは違う。これが大事なのかとも思う。長い事、開設場所が決まらない静岡市と4市2町のアンテナショップ。場所に拘っての決め方も大事かもしれないが、こんな決め方もいいのではないかと感じた。いずれにしても、いつまでに開設するのかをまず静岡市はリードすべきではないかと思う。

8月8日（木） 石川県アンテナショップ「いしかわ百万石物語 江戸本店」

中央く